

# 一人ひとり違う器のお茶時間

ギャラリー萩オーナー・下口豊子さんが提案する



急須 須 稻手忠弘  
湯冷まし 岩崎晴彦  
碗 上出長右衛門窯  
茶 托 山中塗器  
盆 田中昌宏  
豆 皿 山根彩子



急須 曾宇薫 橋本薫  
蕎麦猪口 正木春蔵  
小皿 小島尚  
盆 輪島塗



急須、碗、皿 山下一三  
盆 呉藤友兼



急須、碗、豆皿 森岡希世子  
盆 藤野征一郎



急須 中村久一  
蕎麦猪口 鈴木敬夫  
豆皿 岩崎晴彦  
盆 大下工房

器の色、大きさ、素材をミックスし、感覚で取り合わせる。

上品な染付に華やかな色絵、素材な風合いの木目や塗り、輝き、形が面白いものなど、様々なテイストの茶器や盆を自在に取り合わせるるのが下口さん流。蕎麦猪口をカップに代用するアイデアも気軽に真似したい。「急須の大きさによって、淹れるお茶の種類が変わります。大きいものにはほうじ茶をたっぷり、小さいものには煎茶を、といった具合です」

この日のお茶会は蔵を利用したギャラリーにて。「皆さんに好きに急須や茶葉を交換してもらえよう、ティーバッグ、急須、茶碗、お湯が入ったポットなどを全部用意しておけば、ホストがあくせくと動く必要がないですね(笑)」



器、我々益といつた地元根差した作品はもちろん、金沢市など近郊で活動する作家らの作品も取り入れ、当地の器文化の豊かさや厚みを感じさせてくれる。さらに、茶葉を変える時にゲストが自由に選べるよう、予備の急須や茶碗も多彩に並べて準備。これまでに多くの器に触れ、心動かされた作品の収集も行ってきた下口さんならではもてなした。どのセットにもセンスが光り、ゲストの心は浮き立つばかり。思い入れのある器はストーリーも豊富で、卓上に話のタネは尽きない。

庭で摘んだ季節の花を小さな花瓶に生けて並べれば華やかに。



地元作家の器だけで、こんなにも多彩な取り合わせが楽しめます



仙台市出身。加賀市に嫁ぎ、専業主婦を経て1998年に「ギャラリー萩」を開廊。年3〜4回の企画展では、地元加賀市の作家の作品を中心に取り扱う。今回使用した作家の他の作品も紹介可能。●ギャラリー萩／加賀市大聖寺下屋敷町8 ☎0761-73-2714

加賀市大聖寺でギャラリーを営む下口豊子さんが友人を招いてお茶会を開く時は、一人ひとり違う急須や茶碗のセットで、器の取り合わせも楽しめるようにしているそう。「私のお茶好きは祖母と母親の影響でしょうね。祖母はお菓子を作るのが上手で、母は急須を集めるのが趣味でした。母はよくお茶を飲み終わると手の平で急須を愛おしむように撫でていて、使い込むごとに艶が増していくのが美しかったですね。でも、器の楽しみを知ったのは加賀に嫁いだから、九谷焼という磁器の美しさに出

合い、多くの人が普段の生活の中にそうした器を取り入れ、愛でていることに衝撃を受けました」ギャラリーや夫の仕事、4人の子供を通じて交友関係は広く、以前は頻りにホームパーティーを開いていたという下口さん。現在でも夫婦二人でお気に入りの器を使ってコーヒーやお茶とお菓子を楽しむ時間を大切にしている。そんな器上手であり、もてなし上手でもある下口さんが今回用意してくれたのは、特徴のある急須を中心にコーディネートした5人分の喫茶セット。九谷焼、山中漆